

「ひろしま海岸防災プラン 2021（仮称）」の骨子案について

令和3年1月14日
ため池・農地防災担当
河川課
港湾漁港整備課

1 要旨

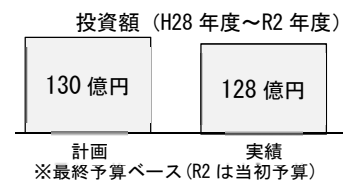
「ひろしま海岸整備プラン 2016」の計画期間が令和2年度で終了することから、上位計画である「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」、次期「社会資本未来プラン」及び次期「農林水産業アクションプログラム」と整合を図りつつ、これまでの成果や課題、社会情勢の変化等を踏まえて、「ひろしま海岸防災プラン 2021（仮称）」を策定する。

2 現行計画の取組成果

投資額が計画を下回り、完成箇所数は計画の5割となったが、継続箇所も含めた護岸等の整備を進めた結果、防護達成人口率は計画の7割程度を達成した。

基本方針	完成箇所・主な取組	整備効果等
防災・減災対策の充実・強化	広島港海岸（似島西, 住吉桜尾, 美の里）, 竹原港海岸（的場）, 江田島海岸（切串幸浦）, 倉橋海岸（脇田）など 8箇所	防護達成人口率 61.0→63.4% 市街地堤防耐震化人口率 13.1→91.5%
ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上	津波災害警戒区域の指定完了 防災 Web にて公表	津波災害警戒区域指定率 0→100%
長寿命化計画に基づく適切な維持管理	排水機場の長寿命化計画策定完了 全海岸保全施設の定期点検完了	
その他の取組み	バイサイドビーチ坂の利活用に係るシンポジウム開催, 海岸監視カメラの設置など	

○投資額について、港湾海岸の交付金事業が下降傾向にあり、計画 130 億円に対し実績 128 億円であった。

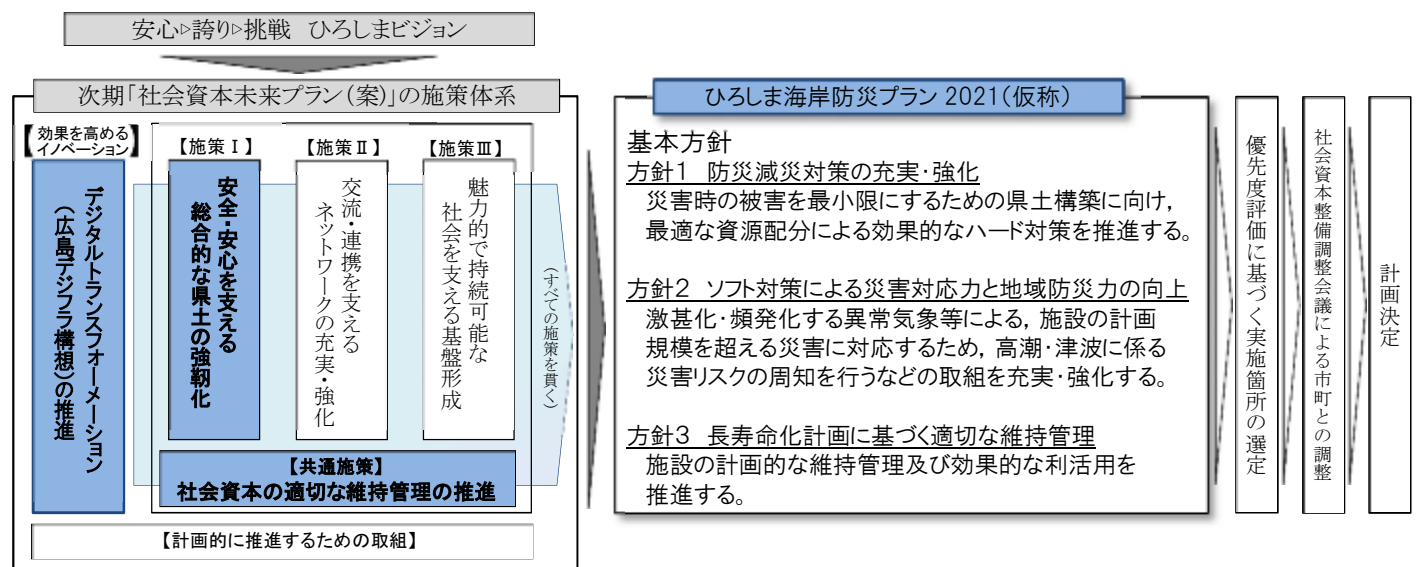


3 骨子案の概要

(1) 計画期間 令和3年度～令和7年度（5年間）

(2) 策定にあたっての考え方

- ① 現行計画の取組状況や社会情勢の変化を踏まえ、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」や次期「社会資本未来プラン」の目指す姿の実現に向けて、下図のとおり重点的に取り組む施策を設定するとともに、各施策においてデジタル技術の活用を推進する。
- ② 県事業の実施箇所については、施策の貢献度や事業の熟度などを考慮するとともに、地元の意見を伺いながら選定する。



4 策定スケジュール

12月	R 3.1月	2月	3月
骨子案公表 ○	社会資本整備調整会議（市町調整を含む）	計画素案公表 ○	成案 ○

現行計画の概要

【策定の趣旨】

県の総合計画「ひろしま未来チャレンジビジョン」の社会資本マネジメントの基本方針である「社会資本未来プラン」及び「2020 広島県農林水産業チャレンジプラン」の海岸部門の事業別整備計画として策定。

【対象期間・対象海岸】

平成 28～令和 2 年度 4 所管（港湾・建設・漁港・農地）

【基本方針】

方針 1 防災・減災対策の充実・強化

- ・優先度の明確化と集中投資による早期効果の発現
- ・南海トラフ巨大地震等に対する計画的な対策

方針 2 ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上

- ・ソフト対策を推進し、「災害死ゼロ」を目指す

方針 3 長寿命化計画に基づく適切な維持管理

- ・計画的な維持管理による既存施設の機能維持、予算の平準化や維持管理コストの縮減を図る

【成果目標】

- ・防災・減災対策の充実・強化

項目	現況値 H28 時点	目標値 R2 末
高潮（津波）防護達成人口率	61.0%	64.4%
市街地堤防耐震化人口率	13.1%	86.5%

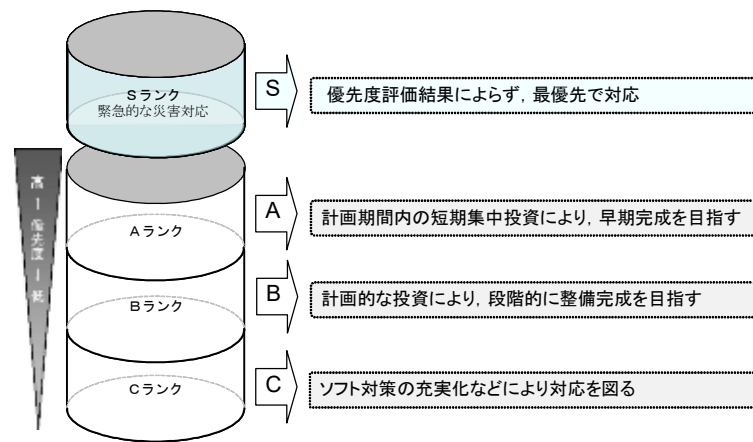
- ・ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上

項目	現況値 H28 時点	目標値 R2 末
津波災害警戒区域指定率	0%（0 市町）	100%（14 市町）

- ・長寿命化計画に基づく適切な維持管理

令和 2 年度までに全施設の定期点検を完了させる。

維持補修計画を作成し、計画的・効率的な維持管理に転換。



現行計画の取組成果

方針 1 防災・減災対策の充実・強化

○投資額が計画を下回り、完成箇所数は計画の 5 割となったが、継続箇所も含めた護岸等の整備を進めた結果、防護達成人口率は計画の 7 割程度を達成した。

○堤防耐震診断を実施し、対策が必要な施設について優先的に実施した。

◆事業実施箇所

区分	完成箇所	継続箇所
港湾	広島港海岸（似島西, 住吉桜尾, 美の里）, 竹原港海岸（的場）	広島港海岸（中央西・東）, 尾道糸崎港海岸（三原, 機織）, 福山港海岸（一文字）ほか
建設	—	呉海岸（天応）, 大野海岸（大国蛭ヶ崎, 早時）ほか
漁港	—	地御前漁港海岸（地御前）, 横田漁港海岸（入双）ほか
農地	江田島海岸（切串幸浦）, 倉橋海岸（脇田）, 向東海岸（古江浜）, 中浜港海岸（外浦）	倉橋海岸（本倉井）

◆成果目標

項目	目標値 R2 末	実績値 R2 末予定
高潮（津波）防護達成人口率	64.4%（+3.4%）	63.4%（+2.4%）
市街地堤防耐震化人口率	86.5%（+73.4%）	91.5%（+78.4%）

（括弧書きは H28 時点からの率の伸び）

方針 2 ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上

○H31.3 津波災害警戒区域の指定を完了し、Web にて公表

項目	目標値 R2 末	実績値 R2 末
津波災害警戒区域指定率	100%（14 市町）	100%（14 市町）

方針 3 長寿命化計画に基づく適切な維持管理

○H29.3 排水機場の長寿命化計画策定完了

○R3.3 全海岸保全施設の定期点検完了

その他の取組

○R 元.6 ベイサイドビーチ坂 利活用に係るシンポジウム開催

○R2.3 福山港海岸一文字地区に海岸監視カメラ設置

計画策定後の状況変化・課題

○最大クラスの津波を想定した「津波災害警戒区域」の指定や近年の激甚化する台風等による浸水被害を受け、あらゆる自然災害への防災・減災対策の重要度が増加している。

○「水防法」の改正に伴い、想定し得る最大規模の高潮に係る浸水想定区域の指定等に取り組む必要がある。

○海岸保全施設の大半が建設後 50 年以上を経過しており、今後も計画的かつ着実に点検等を行い、維持管理に対する取組みを進める必要がある。

○国で定める「海岸保全基本方針」の変更を受け、平均海面水位の上昇等の気候変動の影響を加味した上で、海岸保全基本計画を見直す必要がある。

新計画の実施方針

【策定方針】

「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」及び次期「社会資本未来プラン」・次期「農林水産業アクションプログラム」との整合を図るとともに、これまでの取組成果や激甚化・頻発化する異常気象などの教訓から、ハードとソフトが一体となった防災・減災対策の取組を加速化するなど、新たな課題を踏まえ策定を行う。

【計画期間】

令和 3 年度～令和 7 年度（5 年間）

【基本方針】

方針 1 防災・減災対策の充実・強化

○災害時の被害を最小限にするための県土構築に向け、最適な資源配分による効果的なハード対策を推進する。

- ・激甚化する台風等による災害から県民の安全・安心を確保するため、優先度を設定し効果的な整備を進める。

- ・切迫する南海トラフ巨大地震等への対策として、ゼロメートル市街地を守る堤防等の耐震化に集中投資する。

- ・今後の平均海面水位の上昇等の気候変動の影響を加味した形で、海岸保全基本計画の施設の整備水準を見直す。

方針 2 ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上

○激甚化・頻発化する異常気象等による、施設の計画規模を超える災害に対応するため、高潮・津波に係る災害リスクの周知を行うなどの取組を充実・強化する。

- ・想定し得る最大規模の高潮による高潮浸水想定区域の指定を行い、自助・共助・公助が相互に連携し一体となって防災力向上に資する取組を行う。

- ・デジタル技術を活用し適切な避難行動に繋げる取組を行う。

- ・海岸監視カメラの設置、防潮扉の統廃合などに取り組む。

方針 3 長寿命化計画に基づく適切な維持管理

○施設の計画的な維持管理及び効果的な利活用を推進する。

- ・長寿命化計画に基づく計画的な維持管理により既存施設の機能維持に努める。

- ・デジタル技術を活用し効率的・効果的な維持管理を推進する。

- ・ベイサイドビーチ坂の観光振興など既存施設の利活用に取り組む。